

12月1日(金) 日本 ALS 協会会長の岡部宏生さん来校

普通科2年生は現代文で月刊誌「ノーマライゼーション 障害者の福祉」の中から岡部さんの原稿を教材として読みました。点訳・拡大の許可をいただいたご縁で本人の来校が叶いました。

「内なる優生思想」(2017年5月号 千字提言より)、「障害者と健常者の境」(同10月号)、また、世界 ALS 会議に日本代表として出席した岡部さんの様子をレポートした島根大の伊藤文人教授の記事(同6月号)も読みました。

岡部さん来校の際に、生徒たちはその中の印象的な言葉を紹介し、常松さんは、来月1月5日に文化センターでの表彰式で朗読する「モラルエッセイコンテスト」最優秀賞受賞作品「命の理由」を岡部さんの前で朗読しました。

岡部さんは口文字という方法でコミュニケーションをとります。口文字を読み取り伝える介助者さんたちのテクニックに生徒達は驚きを隠せませんでした。

口文字とはまず、介助者が岡部さんの口の形から、それが「あいうえお」の母音のうち、どれであるかを読み取ります。次に、その母音が「あ」であれば「あかさたなはまやらわ」、「い」であれば「いきしちにひみり」…というように、50音表を横に読んでいきます。岡部さんは言いたい文字が読み上げられたときにまばたきをして、合図を出します。

「障がいは違っても、私たちは健康な人に比べたら与えられた役割が大きいので、一緒にがんばりましょうね」とメッセージをいただきました。

